

4. 成人市中肺炎の重症度別患者数等

成人市中肺炎の患者様の人数を重症度別に集計しました。重症度は、成人市中肺炎診療ガイドライン(日本呼吸器学会)による※重症度分類(A-DROPスコア)を用いて分類しました。
A-DROPとは5つのチェック項目の頭文字をつなげたものであり、スコア0を軽症(外来治療)、1～2を中程度(外来または入院治療)、3を重症(入院治療)、4～5を超重症(ICU治療)として推奨される治療環境を簡便に判断できるようにしています。

A-DROPスコア

- ・A(Age;年齢):男性70歳以上、女性75歳以上
- ・D(Dehydration;脱水):BUN(尿素窒素) 21mg/dL以上、または脱水あり収縮期血圧90mmHg以下
- ・R(Respiration;呼吸):SpO₂(酸素飽和度) 90%以下(PaO₂(動脈血酸素分圧) 60Torr以下)
- ・O(Orientation;見当識):意識障害あり
- ・P(Pressure;血圧):血圧(収縮期)90mmHg以下

重症度分類

- ・上記項目のいずれにも該当しない場合は軽症
- ・上記項目の1つ、または2つに該当する場合は中等症
- ・上記項目の3つに該当する場合は重症
- ・上記項目の4つ以上に該当する場合、または1項目のみの該当であってもショック症状が見られた場合は超重症

定義

入院のきっかけとなった傷病名、および最も医療資源を投入した傷病名が、肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(DPCコード:040080相当)であるものとし、インフルエンザ等のウイルス性肺炎(DPCコード:040070相当)、及び誤嚥性肺炎(DPCコード:040081)は除外とする。入院後発症の肺炎、一般病棟以外からの転入、他

	患者数	平均在院日数	平均年齢
軽症	－	－	－
中等症	19	36.11	82.95
重症	－	－	－
超重症	－	－	－
不明	－	－	－

解説

患者数が10未満の数値には、規定により(－)ハイフンを記入しています。
成人市中肺炎とは、病院外で社会生活を営む健康人に起こる肺炎のことです。
当院では中等症(外来ないし入院治療の適応となる)が19件と最も多く、全体の約6割を占めています。
高齢になるほど重症化リスクが高まり、また、重症化するほど死亡リスクが高まります。そのため症状発生時には直ちに受診し、診断早期より入院下で治療管理することが大切と考えます。